This article is a technical report without peer review, and its polished and/or extended version may be published elsewhere.

第 30 回日本バーチャルリアリティ学会大会論文集（2025 年 9 月）

「中の人」が専門家であるということ：ソーシャル VR における匿名性とアイデンティティの境界線

平木剛史 [1,2], 畑田裕二 [3], 長谷川晶一 [4], 三武裕玄 [5], 入江英嗣 [6]

1) 筑波大学 図書館情報メディア系（〒 305-8550 茨城県つくば市春日 1-2, hiraki@slis.tsukuba.ac.jp）

2) クラスター メタバース研究所（〒 141-0031 東京都品川区西五反田 8-9-5）

3) 東京大学 大学院情報学環（〒 113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1, hatada@cyber.t.u-tokyo.ac.jp）

4) 東京科学大学 未来産業技術研究所（〒 226-8501 神奈川県横浜市緑区長津田町 4259, hase@pi.titech.ac.jp）

5) 明治大学 総合数理学部（〒 164-0001 東京都中野区中野 4-21-1, mitake@meiji.ac.jp）

6) 東京大学 大学院情報理工学系研究科（〒 113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1, irie@mtl.t.u-tokyo.ac.jp）

概要: ソーシャル VR は、アバターを介して誰もが自由なアイデンティティを築けるプラットフォームだとされている。しかし研究者を始めとする専門家は、知識の活用が現実の身分の開示に繋がるため、「匿名性」と「専門性の発揮」というジレンマに直面する。本セッションでは、当事者としての VR 研究者らが集結し、現実の「肩書き」や「専門性」をどのように扱い、両立させているのか（あるいは両立に失敗したのか）、そのリアルな「付き合い方」や実践的な工夫について本音で語り合う。

キーワード： ソーシャル VR, アバター

© 2025 日本バーチャルリアリティ学会